
ONE STEP CLOSER

夏木 岳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE STEP CLOSER

【Z-ONE】

Z-600B

【作者名】

夏木 岳

【あらすじ】

私は誰も信じれない。苦しんでるようつで無表情なリストカット常習者。ワンステップクローサー。諦めた人なの。

私は先生が好きだった。

ある日先生は言った。

就職したら、どんなに嫌なヤツだとしても付き合っていかなきゃいけないって。

教師なんてなるんじゃなかつたつて。

生徒がうつとおしつて。

私はそれを聞いてしまった。

先生が携帯で友達らしき人と話している時、そう愚痴をこぼしていた。

怖くて隠れてしまつた。

私は先生を疑つた。

先生はまだ軽かつたけどイジメを解消したことがあつた。
憧れた。

先生になりたかった。

友達を助けられなかつた自分にとつてヒーローだった。
しかたなく助けたヒーローだった。

先生はいつも笑つてた。

やつぱりしかたなくだつた。

私は先生を信じてた。

私は本当に先生が好きだった。

人を信じれなくなつた。

「またね」

終業のチャイムと共に私の義務は終わる。

「笑う」っていう義務。

学校のみんなはバカみたいに笑う。私も笑う。もちろん回りに合わせた笑顔。

地下鉄を降りて数分、家に着けば私は素になる。

鏡を見れば仮面の顔。凍り付いた無表情しかない、本当の自分。先生に裏切られたあの日、夕陽が沈んだ。私は夜だ。でも、そんな日を送つてて平気なはずがない。

顔色を偽り続け、疲れ果てた私が手に入れたのは、リストカットだった。

「ん……」

部屋のベランダでナイフを手首に当て、横にスライドさせる。何回も繰り返す、一、二、三……

深く深く傷をつけてこの自慰行為は終わる。もちろん血はたくさん出てしまつ。

肘を伝つて落ちる滴、一、二、三……

やがて止まつた時、小さな水溜まりを残してベッドに倒れこむ。また私は人を殺した。頭の中で私を殺した。

そうしないと、安心して眠ることもできなくなつていった。

血は好きだ。

眩しい空なんか写さないから。
写せないから。

私も血なら、笑顔なんてしなくともよかつたのに。

目が覚めたら、肌寒さを感じた。
暖房は入つたまま。

貧血かな、とひどく揺れる頭を持ち上げる。

鏡が結露していた。

前に立つと見えたのは、霧の中にいるような、ぼやけた自分の姿。私は人差し指と中指で写っている私の目元を横に拭つてみると、もうは無くなつた向こうには、あの仮面の顔しかない。鮮明になつた瞳を見ていると、表面の水滴が一つの雫になり流れ落ちていつた。

仮面の私は泣いているのかも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7600b/>

ONE STEP CLOSER

2010年10月10日07時14分発行